

# 大館市の財務書類



(平成29年度決算)

平成31年3月



# 目次

1. はじめに .....	1
地方公会計制度とは .....	1
「統一的な基準」への作成基準移行について .....	1
2. 財務書類の作成区分 .....	2
3. 財務書類の概要 .....	3
① 貸借対照表（平成30年3月31日時点） .....	3
② 行政コスト計算書（平成29年4月1日～平成30年3月31日） .....	4
③ 純資産変動計算書（平成29年4月1日～平成30年3月31日） .....	5
④ 資金収支計算書（平成29年4月1日～平成30年3月31日） .....	6
4. 財務書類から算出される指標値について .....	7
5. 作成区分ごとの財務書類 .....	9

(注) 本書の係数は表示単位未満を四捨五入しているため、下位項目との合計や項目間の差額、割合などが一致しない場合があります。

## 大館市の財務書類(平成29年度決算)

平成31年3月発行

大館市

〒017-8555 秋田県大館市字中城20

## 1. はじめに

### 地方公会計制度とは

地方公共団体の会計方式(単式簿記・現金主義)は、現金の収入・支出という事実に着目して整理されており、客観性と予算の適正・確実な執行の管理という面においてすぐれていますが、土地や建物、借入金などの資産や負債といったストック情報が蓄積されず、また年度ごとの実質的なコストの把握が困難であるといった問題がありました。

そこで「地方公会計制度」として、民間企業の会計方式(複式簿記・発生主義)や考え方を地方公共団体にも取り入れる取組みがすすめられてきました。この会計制度により作成された財務書類は、現金主義会計では見えにくいストックの情報、コストの情報を備えており、かつこれらの情報を相対的・一覽的に把握することができます。

	地方公共団体の会計方式	地方公会計制度
取引の記録方法	<b>単式簿記</b> 取引における現金の収入・支出のみを記録する	<b>複式簿記</b> ひとつの取引について、原因と結果の2つの側面に分解し、借方と貸方に分けて記録する
取引を記録するタイミング	<b>現金主義</b> 実際に現金の収入・支出が生じた時点で記録する	<b>発生主義</b> 実際の現金の収入・支出に関わらず、経済的価値の増減が発生した時点において記録する

### 「統一的な基準」への作成基準移行について

大館市では、平成12年度決算分から財務書類の作成・公表を開始し、平成20年度決算分以降は「総務省方式改訂モデル」に基づく財務書類を作成・公表してきました。

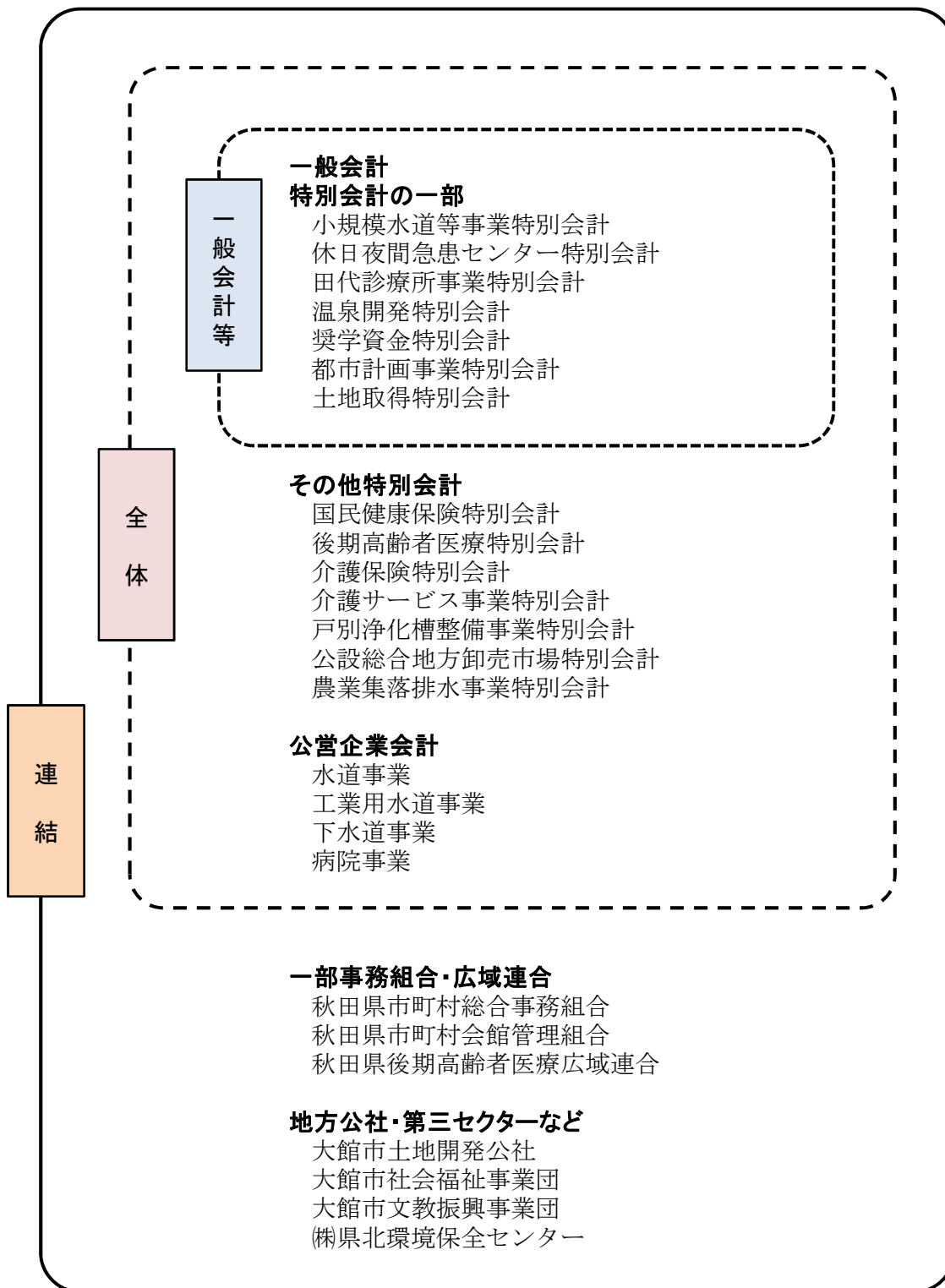
しかしながら、複式簿記や固定資産台帳の整備が必須ではないこと、各地方公共団体の作成する方式にばらつきがあり、団体間の比較が困難である点などが課題となっていました。

こうした課題に対応するため、平成26年度に国から新たな作成基準である「統一的な基準」への移行が要請されました。この移行によって複式簿記の導入・固定資産台帳の整備が必須となり、また全国で同一の基準に基づいて財務書類を作成することとなったため、団体同士の財務状況がより比較しやすくなりました。

大館市においてもこの要請に基づき、平成28年度決算より「統一的な基準」に基づく財務書類の作成・公表を行い、今回は2回目の公表となります。

## 2. 財務書類の作成区分

「統一的な基準」では、対象範囲が異なる3つの作成区分で財務書類を作成します。



### 3. 財務書類の概要

ここでは、4つの財務書類に基づいて、平成29年度決算の概要を解説します。

#### ① 貸借対照表（BS） 平成30年3月31日時点

年度末時点で保有する資産、負債などの残高(ストック情報)を示したものです。また、左側の「資産合計」と右側の「負債・純資産合計」とが同額となり、つり合うことからバランスシート(BS)ともいいます。表の左側の「資産」とは、大館市が保有している土地・学校・道路などの固定資産や、現金預金・基金などの金融資産の残高で、市民サービス提供の能力を表しているといえます。一方、右側の「負債・純資産」は、「資産」をどのような財源で賄ってきたかを表し、「負債」は将来世代の負担、「純資産」はこれまでの世代の負担といえます。

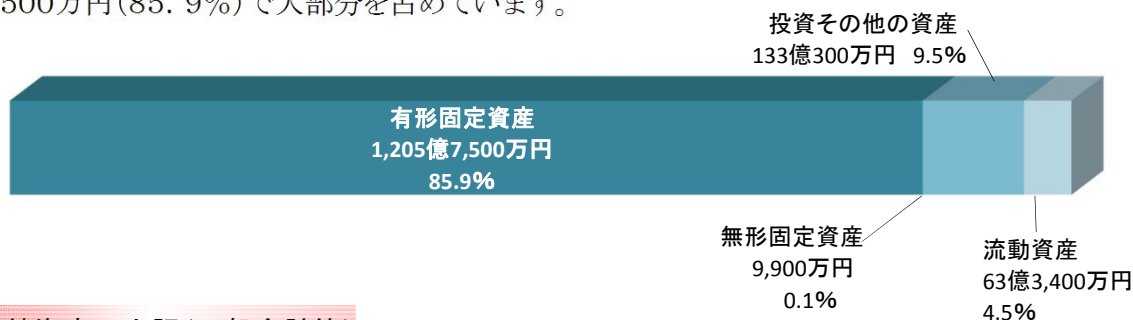
(単位：百万円)

資産	負債						
	一般会計等	全体	連結				
(1) 固定資産	133,977	185,704	189,782	(1) 固定負債	34,635	81,724	85,233
① 有形固定資産	120,575	173,104	173,282	① 地方債	27,423	60,222	60,222
② 無形固定資産	99	3,228	3,229	② 退職手当引当金	5,993	5,993	9,496
③ 投資その他の資産	13,303	9,372	13,271	③ その他	1,220	15,510	15,515
(2) 流動資産	6,334	13,523	14,767	(2) 流動負債	4,297	9,799	9,922
① 現金預金	2,318	6,888	7,753	① 1年内償還予定地方債	3,131	6,811	6,811
② 未収金	622	2,353	2,514	② 未払金	317	1,730	1,814
③ 財政調整基金等	3,333	4,165	4,363	③ その他	849	1,258	1,297
④ 徴収不能引当金	0	△ 3	△ 4	負債 合計	38,932	91,523	95,155
⑤ その他	61	121	139	純資産			
				一般会計等	101,379	107,704	109,393
資産 合計	140,311	199,228	204,548	負債・純資産 合計	140,311	199,228	204,548

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

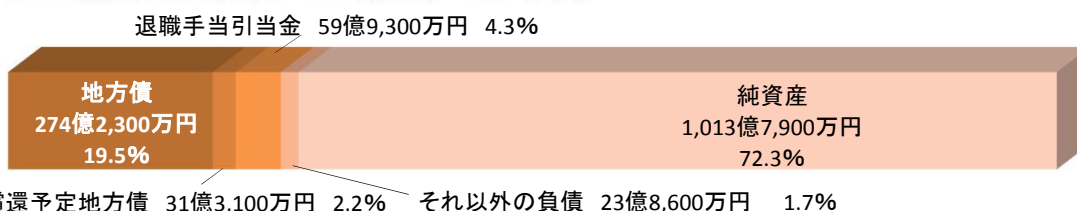
#### 資産の内訳(一般会計等)

資産の総額は1,403億1,100万円で、このうち、土地や道路、学校などの「有形固定資産」が1,205億7,500万円(85.9%)で大部分を占めています。



#### 負債・純資産の内訳(一般会計等)

負債・純資産合計1,403億1,100万円のうち、借入金である「地方債」と「1年内償還予定地方債」の合計305億5,400万円(21.7%)が約5分の1を占めています。資産から負債を差し引いた「純資産」は1,013億7,900万円(72.3%)となっています。



## ② 行政コスト計算書（PL） 平成29年4月1日～平成30年3月31日

民間の企業会計における損益計算書にあたるもので、1年間の行政活動のうち、福祉サービスの提供といった資産形成に結びつかない行政サービスに要したコストを、「人件費」「物件費等」「その他の業務費用」「移転費用」に区分したものです。また、「使用料」や「手数料」など、行政サービスの直接的な対価を収益とし、費用と収益の差引きを「純行政コスト」として求めています。

(単位：百万円)

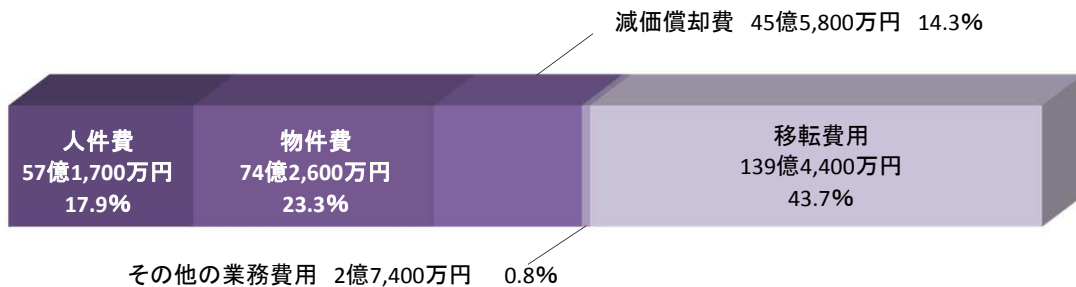
平成29年度 行政コスト計算書		一般会計等	全体	連結
(1) 経常費用		31,918	61,715	71,815
① 人件費	職員給与や議員報酬など	5,717	11,721	12,671
② 物件費等		11,983	19,145	19,389
	委託料、修繕費など	7,426	12,102	12,327
	減価償却費	4,558	7,043	7,063
③ その他の業務費用	地方債の償還利子など	274	1,697	2,080
④ 移転費用	補助金や負担金、扶助費など	13,944	29,152	37,677
(2) 経常収益	使用料や手数料など	1,047	12,302	13,227
(3) 臨時損失	災害復旧費や資産の除売却損など	1,170	618	622
(4) 臨時利益	資産の売却益など臨時発生のもの	358	474	474
純行政コスト	(2) - (1) - (3) + (4)	△ 31,684	△ 49,557	△ 58,736

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

一見しますと、純行政コストは大きな純損失となっているように見えますが、市の歳入は使用料や手数料のみではなく市税や地方交付税など(税収等)のほか国県等補助金などがあり、それらについては次頁の「純資産変動計算書」に計上されています。

### 経常費用の内訳(一般会計等)

経常費用の総額319億1,800万円のうち、福祉サービスにかかる給付や補助金などの「移転費用」が139億4,400万円(43.7%)と4割以上を占めています。



### ③ 純資産変動計算書 (NWM) 平成29年4月1日～平成30年3月31日

民間の企業会計における「株主資本変動計算書」にあたるもので、貸借対照表中の「純資産合計(=過去の世代や国・県が負担した将来返済しなくてもよい財産)」が1年間にどのように増減したかを、「財源」「資産評価差額」「無償所管換等」「その他」に区分して示したものです。

(単位：百万円)

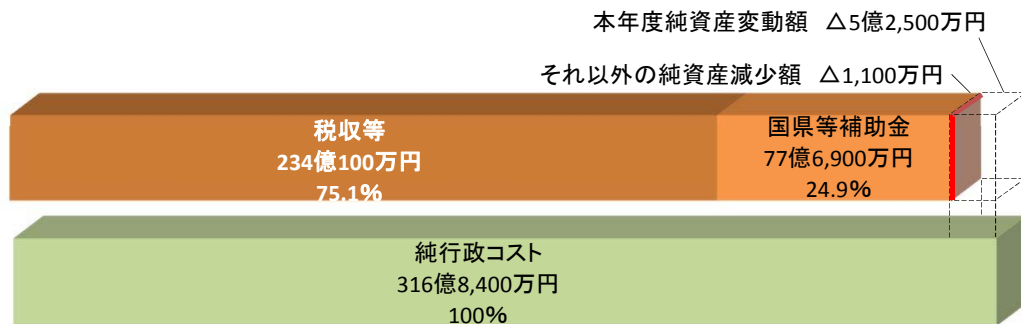
平成29年度 純資産変動計算書		一般会計等	全体	連結
(1) 平成28年度末純資産残高		101,901	108,040	109,688
(2) 純行政コスト (△)		△ 31,684	△ 49,557	△ 58,736
(3) 財源		31,170	49,219	58,296
① 税収等	市税や交付金、保険料など	23,401	34,430	38,767
② 国県等補助金	国や県からの補助金収入	7,769	14,788	19,529
本年度差額	(財源) - (純行政コスト)	△ 514	△ 338	△ 441
(4) 資産評価差額		0	0	0
(5) 無償所管替等		△ 4	△ 4	△ 4
(6) その他の純資産変動額		△ 4	6	150
本年度純資産変動額	(本年度差額)+(4)+(5)+(6)	△ 522	△ 336	△ 295
本年度末純資産残高	(本年度純資産変動額)+(1)	101,379	107,704	109,393

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

「純行政コスト」が税収等や国県補助金によって補填されている状況を表しているほか、その他の増減要因も見ることができ、将来返済する必要のない「純資産」が増えたのか減ったのか、知ることができます。

#### 純資産変動の内訳(一般会計等)

純行政コストは316億8,400万円の純損失で、市税や地方交付税など(税収等)や国県等補助金といった財源で補填しましたが不足し、その他資産の無償譲渡等により1,100万円の純資産の減少があったため、本年度の純資産は5億2,500万円減少し、1,013億7,900万円となりました。





#### ④ 資金収支計算書（CF）平成29年4月1日～平成30年3月31日

1年間の資金の増減を、現役世代のための「業務活動収支」、将来世代のための「投資活動収支」、将来世代が負担すべき「財務活動収支」の3つに区分したもので、民間の企業会計におけるキャッシュ・フロー計算書にあたります。

なお、連結における資金収支計算書については、連結対象の団体においてキャッシュ・フロー計算書を作成していない団体もあることから、作成を省略しています。

(単位：百万円)

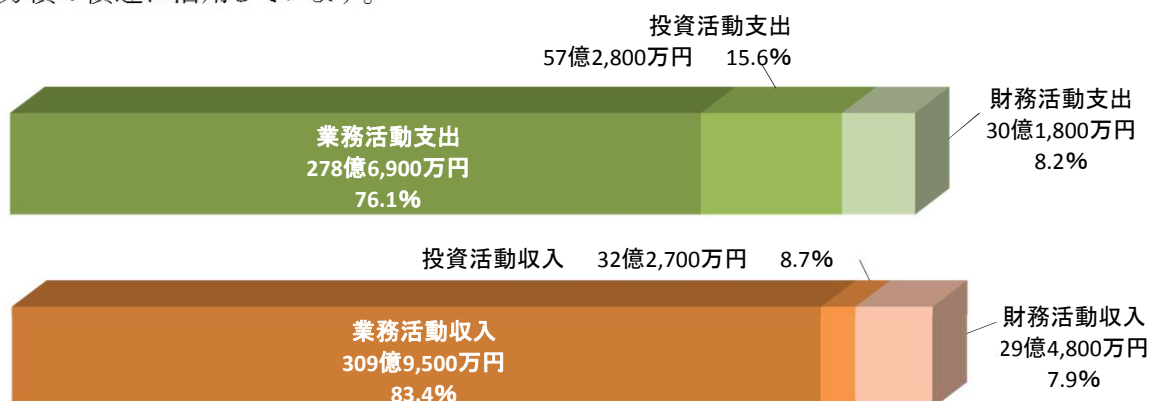
平成29年度 資金収支計算書		一般会計等	全体	連結	
(1) 業務活動収支 (②-①)		3,126	4,345		
① 支出合計	人件費・物件費・補助金など	27,869	55,745		
② 収入合計	市税・保険料・使用料など	30,995	60,089		
(2) 投資活動収支 (②-①)		△ 2,501	△ 3,044		
① 支出合計	施設や道路の建設などの資産形成	5,728	6,945		
② 収入合計	資産形成に充てられた補助金など	3,227	3,901		
(3) 財務活動収支 (②-①)		△ 70	△ 686		
① 支出合計	地方債や借入金などの元金償還	3,018	6,590		
② 収入合計	地方債や借入金などによる収入	2,948	5,905		
A 本年度資金収支額 (1) + (2) + (3)		555	616		493
B 前年度末資金残高		1,333	5,841		6,829
C 比例連結割合変更に伴う差額					1
D 本年度末資金残高 A + B + C		1,888	6,458	7,323	
E 前年度末歳計外現金残高		429	429	429	
F 本年度歳計外現金増減額		2	2	2	
G 本年度末歳計外現金残高 E + F		431	431	431	
H 本年度末現金預金残高 D + G		2,318	6,888	7,753	

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

財務活動収支がマイナスであるということは、借入よりも返済が上回ったことになり、負債の軽減が図られたといえます。また、本年度資金収支額は5億5,500万円のプラスでしたが、マイナスだった場合は、前年度末資金残高(=前年度からの繰越金)を消費したということになります。

#### 支出と収入の内訳(一般会計等)

業務活動収支で収入が上回った31億2,600万円の資金を、投資活動による資産形成や財務活動の地方債の償還に活用しています。



#### 4. 財務書類から算出される指標値(一般会計等)

分析の視点		指 標	平成 29 年度	平成 28 年度
資産形成度	将来世代に残る資産はどのくらいあるか	市民一人あたり資産額	1.92 百万円	1.90 百万円
		歳入額対資産比率	3.7 年	3.8 年
		有形固定資産減価償却率	57.0%	55.5%
世代間公平性	将来世代と現世代との負担の分担は適切か	純資産比率	72.3%	72.2%
		負債総資本比率	27.7%	27.8%
持続可能性	財政に持続可能性があるか(どのくらい借金があるか)	市民一人あたり負債額	0.53 百万円	0.53 百万円
		基礎的財政収支	793 百万円	1,008 百万円
		債務償還可能年数	9.8 年	9.1 年
効率性	行政サービスは効率的に提供されているか	市民一人あたり行政コスト	0.43 百万円	0.42 百万円
自律性	受益者負担の水準はどうか	受益者負担割合	3.3%	3.4%

計算式 (平成 29 年度)	備 考
資産合計 140,311 百万円 <hr/> 住民基本台帳人口 73,001 人	市民一人あたりとすることで類似団体との比較が容易となる。
資産合計 140,311 百万円 <hr/> 歳入総額 38,439 百万円	これまでに形成された資産が、歳入の何年分に相当するかを示す。
減価償却累計額 119,174 百万円 <hr/> 償却資産の取得原価 208,971 百万円	有形資産が、耐用年数に対して取得からの程度経過したかを示す。
純資産 101,379 百万円 <hr/> 資産合計 140,311 百万円	保有している資産に対する現世代（過去世代を含む）の負担を示す。
負債合計 38,932 百万円 <hr/> 資産合計 140,311 百万円	保有している資産に対する将来世代の負担を示す。
負債合計 38,932 百万円 <hr/> 住民基本台帳人口 73,001 人	市民一人あたりとすることで類似団体との比較が容易となる。
業務活動収支 + 支払利息 + 投資活動収支 = 3,126 百万円 + 168 百万円 + △2,501 百万円	歳入から地方債の発行を除いた金額と、歳出から地方債の償還を除いた金額の収支を示す。プラスであれば、地方債が増加していないことを表す。
1年以内 地方債 27,423 百万円 + 償還予定地方債 3,131 百万円 <hr/> 業務活動収支 3,126 百万円	地方債残高が業務活動収支の黒字分の何年分あるかを示す。当該年数が短いほど債務償還能力が高いことを表す。
純行政コスト 31,684 百万円 <hr/> 住民基本台帳人口 73,001 人	市民一人あたりとすることで類似団体との比較が容易となる。
経常収益 1,047 百万円 <hr/> 経常費用 31,918 百万円	行政サービスの提供が、使用料、手数料等の受益者負担でどの程度賄われているのかを示す。

※ 住民基本台帳人口は、平成 30 年 3 月 31 日現在の数値を用いました。



## 5. 作成区分ごとの財務書類

### 一般会計等財務書類

- ・貸借対照表
- ・行政コスト計算書
- ・純資産変動計算書
- ・資金収支計算書
- ・注記

### 全体財務書類

- ・貸借対照表
- ・行政コスト計算書
- ・純資産変動計算書
- ・資金収支計算書
- ・注記

### 連結財務書類

- ・貸借対照表
- ・行政コスト計算書
- ・純資産変動計算書
- ・資金収支計算書
- ・注記

※ 各附属明細書、連結精算表については、別冊『財務書類附属資料集』に掲載しています。

# 一般会計等貸借対照表

(平成30年3月31日現在)

(単位:百万円)

科目	金額	科目	金額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
固定資産	133,977 ※	固定負債	34,635 ※
有形固定資産	120,575 ※	地方債	27,423
事業用資産	45,349 ※	長期未払金	1,220
土地	18,343	退職手当引当金	5,993
立木竹	3,018	損失補償等引当金	-
建物	71,261	その他	-
建物減価償却累計額	△ 49,178	流動負債	4,297
工作物	4,267	1年内償還予定地方債	3,131
工作物減価償却累計額	△ 2,775	未払金	317
船舶	-	未払費用	6
船舶減価償却累計額	-	前受金	35
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	377
航空機	-	預り金	431
航空機減価償却累計額	-	その他	-
その他	1,530	負債合計	38,932
その他減価償却累計額	△ 1,434	<b>【純資産の部】</b>	
建設仮勘定	315	固定資産等形成分	137,371
インフラ資産	74,311 ※	余剰分(不足分)	△ 35,992
土地	6,040		
建物	6,317		
建物減価償却累計額	△ 2,163		
工作物	121,187		
工作物減価償却累計額	△ 60,139		
その他	80		
その他減価償却累計額	△ 72		
建設仮勘定	3,059		
物品	4,329		
物品減価償却累計額	△ 3,413		
無形固定資産	99		
ソフトウェア	68		
その他	31		
投資その他の資産	13,303 ※		
投資及び出資金	6,435		
有価証券	37		
出資金	257		
その他	6,141		
投資損失引当金	△ 1,753		
長期延滞債権	334		
長期貸付金	452		
基金	7,870		
減債基金	-		
その他	7,870		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 34		
流動資産	6,334		
現金預金	2,318		
未収金	622		
短期貸付金	61		
基金	3,333		
財政調整基金	2,418		
減債基金	915		
棚卸資産	-		
その他	0		
徴収不能引当金	0		
資産合計	140,311	純資産合計	101,379
		負債及び純資産合計	140,311

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

# 一般会計等行政コスト計算書

自 平成29年4月1日

至 平成30年3月31日

(単位:百万円)

科目	金額
経常費用	31,918 ※
業務費用	17,974 ※
人件費	5,717
職員給与費	4,969
賞与等引当金繰入額	377
退職手当引当金繰入額	65
その他	306
物件費等	11,983 ※
物件費	6,637
維持補修費	783
減価償却費	4,558
その他	6
その他の業務費用	274
支払利息	166
徴収不能引当金繰入額	34
その他	74
移転費用	13,944
補助金等	6,448
社会保障給付	4,926
他会計への繰出金	2,478
その他	92
経常収益	1,047
使用料及び手数料	400
その他	647
純経常行政コスト	△ 30,872 ※
臨時損失	1,170 ※
災害復旧事業費	297
資産除売却損	189
投資損失引当金繰入額	685
損失補償等引当金繰入額	-
その他	0
臨時利益	358
資産売却益	1
その他	357
純行政コスト	△ 31,684

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

# 一般会計等純資産変動計算書

自 平成29年4月1日  
至 平成30年3月31日

(単位:百万円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	101,901	138,817	△ 36,916
純行政コスト(△)	△ 31,684		△ 31,684
財源	31,170		31,170
税収等	23,401		23,401
国県等補助金	7,769		7,769
本年度差額	△ 514		△ 514
固定資産等の変動(内部変動)		△ 1,442	1,442
有形固定資産等の増加		3,052	△ 3,052
有形固定資産等の減少		△ 4,338	4,338
貸付金・基金等の増加		1,123	△ 1,123
貸付金・基金等の減少		△ 1,279	1,279
資産評価差額	0	0	
無償所管換等	△ 4	△ 4	
その他	△ 4	-	△ 4
本年度純資産変動額	△ 522	△ 1,446	924
本年度末純資産残高	101,379	137,371	△ 35,992

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。



# 一般会計等資金収支計算書

自 平成29年4月1日

至 平成30年3月31日

(単位:百万円)

科目	金額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	27,572 ※
業務費用支出	13,629
人件費支出	5,648
物件費等支出	7,766
支払利息支出	168
その他の支出	47
移転費用支出	13,944
補助金等支出	6,448
社会保障給付支出	4,926
他会計への繰出支出	2,478
その他の支出	92
業務収入	30,931
税込等収入	23,414
国県等補助金収入	6,475
使用料及び手数料収入	399
その他の収入	643
臨時支出	297
災害復旧事業費支出	297
その他の支出	-
臨時収入	64
<b>業務活動収支</b>	<b>3,126</b>
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	5,728 ※
公共施設等整備費支出	2,746
基金積立金支出	1,679
投資及び出資金支出	602
貸付金支出	516
その他の支出	184
投資活動収入	3,227 ※
国県等補助金収入	1,000
基金取崩収入	1,669
貸付金元金回収収入	557
資産売却収入	2
その他の収入	-
<b>投資活動収支</b>	<b>△ 2,501</b>
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	3,018
地方債償還支出	3,018
その他の支出	0
財務活動収入	2,948
地方債発行収入	2,948
その他の収入	-
<b>財務活動収支</b>	<b>△ 70</b>
本年度資金収支額	555
前年度末資金残高	1,333
本年度末資金残高	1,888
<b>前年度末歳計外現金残高</b>	<b>429</b>
<b>本年度歳計外現金増減額</b>	<b>2</b>
<b>本年度末歳計外現金残高</b>	<b>431</b>
<b>本年度末現金預金残高</b>	<b>2,318 ※</b>

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

注記事項（一般会計等）

1 重要な会計方針

(1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

① 有形固定資産・・・・・・・・・・取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア 昭和59年度以前に取得したもの・・・・・・・・再調達価額

ただし、道路、河川、水路の敷地は備忘価額1円としています。

イ 昭和60年度以降に取得したもの

取得原価が判明しているもの・・・・・・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・・・・・・再調達価額

ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

② 無形固定資産・・・・・・・・・・取得原価

(2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

① 出資金

ア 市場価格のないもの・・・・・・・・出資金額

(実質価額が著しく低下したものについては、相当の減額を行った後の価額で計上しています)

(3) 有形固定資産等の減価償却の方法

① 有形固定資産（建物・工作物・物品など）・・・・定額法

② 無形固定資産

ア ソフトウェア・・・・・・・・定額法

イ 無形固定資産・・・・・・・・定額法

③ リース資産

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

・・・・・・・・自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

イ 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

・・・・・・・・リース期間を耐用年数とし、残存価値をゼロとする定額法

(4) 引当金の計上基準及び算定方法

① 投資損失引当金

市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体（会計）に対するものについて、実質価額が著しく低下した場合における実質価額と取得価額との差額を計上しています。

② 徴収不能引当金

未収金については、過去5年間の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

長期延滞債権については、過去5年間の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

長期貸付金については、過去5年間の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

③ 退職手当引当金

退職手当債務から組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された額の総額を控除した額に、組合における積立金額の運用益のうち大館市へ按分される額を加算した額を控除した額を計上しています。

なお、「公営企業の管理者及び公営企業に従事する職員退職手当に係る覚書」に基づき、一般会計が全部を負担することになっているため、公営企業法が適用される会計に係る退職手当引当金は一般会計に一括計上されています。

④ 賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(5) リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引（リース期間が1年以内のリース取引及びリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(6) 資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（大館市資金管理方針において、歳計現金等の保管方法として規定した預金等をいいます。）

なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

(7) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

① 物品の計上基準

物品は、取得価額又は見積価格が50万円（美術品は300万円）以上のものを資産として計上しています。

2 重要な会計方針の変更等

該当事項はありません。

3 追加情報

(1) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

① 一般会計等財務書類の対象範囲は次のとおりです。

一般会計

小規模水道等事業特別会計

休日夜間急患センター特別会計

田代診療所事業特別会計

温泉開発特別会計

奨学資金特別会計

都市計画事業特別会計

土地取得特別会計

② 地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられている会計においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

③ 百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

④ 地方公共団体の財政の健全化に関する法律における健全化判断比率の状況は、次のとおりです。

実質赤字比率 ー%

連結実質赤字比率 ー%

実質公債費比率 8.8%

将来負担比率 72.1%

⑤ 利子補給等に係る債務負担行為の翌年度以降の支出予定額 1,381百万円

⑥ 繰越事業に係る将来の支出予定額

繰越明許費

(一般会計) 1,128百万円

(都市計画事業特別会計) 38百万円

通次繰越

(一般会計)

227百万円

(2) 貸借対照表に係る事項

- ① 売却可能資産の範囲及び内訳は、次のとおりです。

ア 範囲

普通財産のうち活用が図られていない公共施設

イ 内訳

事業用資産 土地 404 百万円

平成30年3月31日時点における売却可能価額を記載しています。

売却可能価額は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律における評価方法によっています。

- ② 減価償却累計額

ソフトウエア 29 百万円

無形固定資産 その他 21 百万円

- ③ 基金借入金（繰替運用）

土地開発基金 754百万円

- ④ 地方交付税措置のある地方債のうち、将来の普通交付税の算定基礎である基準財政需要額に含まれることが見込まれる金額 24,154百万円

- ⑤ 地方公共団体の財政の健全化に関する法律における将来負担比率の算定要素は、次のとおりです。

標準財政規模 21,742百万円

元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額 2,381百万円

将来負担額 60,101百万円

充当可能基金額 7,687百万円

特定財源見込額 2,651百万円

地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額 36,415百万円

- ⑥ 建物のうち692百万円、工作物のうち16百万円は、PFI事業に係る資産が計上されています。

(3) 純資産変動計算書に係る事項

純資産における固定資産等形成分及び余剰分（不足分）の内容

- ① 固定資産等形成分

固定資産の額に流動資産における短期貸付金及び基金を加えた額を計上しています。

- ② 余剰分（不足分）

純資産合計額のうち、固定資産等形成分を差し引いた金額を計上しています。

(4) 資金収支計算書に係る事項

- ① 基礎的財政収支 793百万円
- ② 既存の決算情報との関連性

	収入（歳入）	支出（歳出）
歳入歳出決算書	37,815百万円	35,936百万円
財務書類の対象となる会計の範囲の相違に伴う差額	1,096百万円	1,088百万円
資金収支計算書	38,503百万円	36,615百万円

地方自治法第233第1項に基づく歳入歳出決算書は「一般会計」を対象範囲としているのに対し、資金収支計算書は「一般会計等」を対象範囲としているため、歳入歳出決算書と資金収支計算書は一部の特別会計【3.(1).①の一般会計以外】の分だけ相違します。

- ③ 資金収支計算書の業務活動収支と純資産変動計算書の本年度差額との差額の内訳

資金収支計算書

業務活動収支	3,126百万円
投資活動収入の国県等補助金収入	1,000百万円
未収債権、未払債務額の増加（減少）	517百万円
減価償却費	△4,558百万円
賞与等引当金繰入額	△377百万円
徴収不能引当金繰入額	△34百万円
資産除売却益（損）	△188百万円
純資産変動計算書の本年度差額	△514百万円



# 全体貸借対照表

(平成30年3月31日現在)

(単位:百万円)

科目	金額	科目	金額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
固定資産	185,704 ※	固定負債	81,724 ※
有形固定資産	173,104 ※	地方債等	60,222
事業用資産	54,153	長期未払金	1,230
土地	18,805	退職手当引当金	5,993
立木竹	3,018	損失補償等引当金	-
建物	86,392	その他	14,280
建物減価償却累計額	△ 56,144	流動負債	9,799
工作物	5,056	1年内償還予定地方債等	6,811
工作物減価償却累計額	△ 3,386	未払金	1,730
船舶	-	未払費用	8
船舶減価償却累計額	-	前受金	35
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	732
航空機	-	預り金	483
航空機減価償却累計額	-	その他	0
その他	1,530	負債合計	91,523
その他減価償却累計額	△ 1,434	<b>【純資産の部】</b>	
建設仮勘定	316	固定資産等形成分	189,931
インフラ資産	114,764 ※	余剰分(不足分)	△ 82,227
土地	6,415		
建物	9,972		
建物減価償却累計額	△ 4,418		
工作物	181,797		
工作物減価償却累計額	△ 83,470		
その他	526		
その他減価償却累計額	△ 419		
建設仮勘定	4,359		
物品	15,755		
物品減価償却累計額	△ 11,569		
無形固定資産	3,228 ※		
ソフトウェア	107		
その他	3,122		
投資その他の資産	9,372 ※		
投資及び出資金	294		
有価証券	37		
出資金	257		
その他	0		
投資損失引当金	0		
長期延滞債権	617		
長期貸付金	470		
基金	8,065		
減債基金	-		
その他	8,065		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 75		
流動資産	13,523 ※		
現金預金	6,888		
未収金	2,353		
短期貸付金	62		
基金	4,165		
財政調整基金	3,250		
減債基金	915		
棚卸資産	39		
その他	20		
徴収不能引当金	△ 3		
繰延資産	-		
資産合計	199,228 ※	純資産合計	107,704
		負債及び純資産合計	199,228 ※

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。



# 全体行政コスト計算書

自 平成29年4月1日

至 平成30年3月31日

(単位:百万円)

科目	金額
経常費用	61,715 ※
業務費用	32,562 ※
人件費	11,721 ※
職員給与費	10,599
賞与等引当金繰入額	725
退職手当引当金繰入額	65
その他	331
物件費等	19,145
物件費	11,135
維持補修費	957
減価償却費	7,043
その他	10
その他の業務費用	1,697 ※
支払利息	780
徴収不能引当金繰入額	77
その他	839
移転費用	29,152
補助金等	24,129
社会保障給付	4,929
他会計への繰出金	0
その他	94
経常収益	12,302
使用料及び手数料	11,112
その他	1,190
純経常行政コスト	△ 49,413
臨時損失	618 ※
災害復旧事業費	297
資産除売却損	195
投資損失引当金繰入額	0
損失補償等引当金繰入額	-
その他	127
臨時利益	474
資産売却益	1
その他	473
純行政コスト	△ 49,557

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

# 全体純資産変動計算書

自 平成29年4月1日  
至 平成30年3月31日

(単位:百万円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	108,040	191,964	△ 83,923
純行政コスト(△)	△ 49,557		△ 49,557
財源	49,219 ※		49,219 ※
税収等	34,430		34,430
国県等補助金	14,788		14,788
本年度差額	△ 338		△ 338
固定資産等の変動(内部変動)		△ 2,040	2,040
有形固定資産等の増加		5,073	△ 5,073
有形固定資産等の減少		△ 6,877	6,877
貸付金・基金等の増加		724	△ 724
貸付金・基金等の減少		△ 960	960
資産評価差額	0	0	
無償所管換等	△ 4	△ 4	
その他	6	12	△ 6
本年度純資産変動額	△ 336 ※	△ 2,032	1,696
本年度末純資産残高	107,704 ※	189,931 ※	△ 82,227

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

# 全体資金収支計算書

自 平成29年4月1日  
至 平成30年3月31日

(単位:百万円)

科目	金額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	55,448
業務費用支出	26,295 ※
人件費支出	11,654
物件費等支出	13,073
支払利息支出	782
その他の支出	787
移転費用支出	29,152
補助金等支出	24,129
社会保障給付支出	4,929
他会計への繰出支出	525
その他の支出	△ 431
業務収入	59,909 ※
税込等収入	34,256
国県等補助金収入	13,121
使用料及び手数料収入	11,275
その他の収入	1,258
臨時支出	297
災害復旧事業費支出	297
その他の支出	-
臨時収入	180
<b>業務活動収支</b>	<b>4,345 ※</b>
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	6,945
公共施設等整備費支出	4,486
基金積立金支出	1,747
投資及び出資金支出	0
貸付金支出	521
その他の支出	191
投資活動収入	3,901
国県等補助金収入	1,438
基金取崩収入	1,837
貸付金元金回収収入	559
資産売却収入	2
その他の収入	65
<b>投資活動収支</b>	<b>△ 3,044</b>
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	6,590
地方債償還支出	6,585
その他の支出	5
財務活動収入	5,905
地方債発行収入	5,905
その他の収入	0
<b>財務活動収支</b>	<b>△ 686 ※</b>
本年度資金収支額	616 ※
前年度末資金残高	5,841
本年度末資金残高	6,458 ※
前年度末歳計外現金残高	429
本年度歳計外現金増減額	2
本年度末歳計外現金残高	431
本年度末現金預金残高	6,888 ※

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

## 注記事項（全体）

### 1 重要な会計方針

#### （1）有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有形固定資産・・・・・・・・・・取得原価

ただし、一般会計および公営企業以外の特別会計における開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

##### ア 昭和59年度以前に取得したもの・・・・・・・・再調達価額

ただし、道路、河川、水路の敷地は備忘価額1円としています。

##### イ 昭和60年度以降に取得したもの

取得原価が判明しているもの・・・・・・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・・・・・・再調達価額

ただし、一般会計および公営企業以外の特別会計における取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

##### ② 無形固定資産・・・・・・・・・・取得原価

#### （2）有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

##### ① 出資金

##### ア 市場価格のないもの・・・・・・・・出資金額

（実質価額が著しく低下したものについては、相当の減額を行った後の価額で計上しています）

#### （3）棚卸資産の評価基準及び評価方法

##### ① 病院事業・・・先入先出法に基づく原価法

##### ② 水道事業・・・移動平均法による原価法

#### （4）有形固定資産等の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産（建物・工作物・物品など）・・・・定額法

##### ② 無形固定資産

##### ア ソフトウエア・・・・・・・・定額法

##### イ 無形固定資産・・・・・・・・定額法

##### ③ リース資産

##### ア 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

・・・・・・・・自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

イ 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
．．．．．リース期間を耐用年数とし、残存価値をゼロとする定額法

(5) 引当金の計上基準及び算定方法

① 徴収不能引当金

未収金については、過去の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

長期延滞債権については、過去の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

長期貸付金については、過去の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

② 退職手当引当金

退職手当債務から、組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された額の総額を控除した額を差し引いた額を計上しています。

③ 賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(6) リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引（リース期間が1年以内のリース取引及びリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(7) 全体資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（大館市資金管理方針において、歳計現金等の保管方法として規定した預金等をいいます。）

なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

(8) 消費税等の会計処理

税込方式によっています。ただし、公営企業会計については、税抜方式によっています。

2 重要な会計方針の変更等

該当事項はありません。

3 重要な後発事象

該当事項はありません。

4 追加情報

(1) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

① 全体財務書類の対象範囲は次のとおりです。

一般会計

小規模水道等事業特別会計

休日夜間急患センター特別会計

田代診療所事業特別会計

温泉開発特別会計

奨学資金特別会計

都市計画事業特別会計

土地取得特別会計

国民健康保険特別会計

後期高齢者医療特別会計

介護保険特別会計

介護サービス事業特別会計

戸別浄化槽整備事業特別会計

公設総合地方卸売市場特別会計

農業集落排水事業特別会計

水道事業

工業用水道事業

下水道事業

病院事業

- ② 地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられている会計においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。なお、出納整理期間を設けていない会計と出納整理期間を設けている会計との間で、出納整理期間に現金の受払い等があった場合は、現金の受払い等が終了したものとして調整しています。

- ③ 百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

# 連結貸借対照表

(平成30年3月31日現在)

(単位:百万円)

科目	金額	科目	金額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
固定資産	189,782 ※	固定負債	85,233
有形固定資産	173,282 ※	地方債等	60,222
事業用資産	54,297	長期未払金	1,235
土地	18,805	退職手当引当金	9,496
立木竹	3,018	損失補償等引当金	-
建物	86,688	その他	14,280
建物減価償却累計額	△ 56,303	流動負債	9,922
工作物	5,090	1年内償還予定地方債等	6,811
工作物減価償却累計額	△ 3,413	未払金	1,814
船舶	-	未払費用	26
船舶減価償却累計額	-	前受金	35
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	732
航空機	-	預り金	504
航空機減価償却累計額	-	その他	0
その他	1,530	負債合計	95,155
その他減価償却累計額	△ 1,434	<b>【純資産の部】</b>	
建設仮勘定	316	固定資産等形成分	194,207
インフラ資産	114,764 ※	余剰分(不足分)	△ 84,919
土地	6,415	他団体出資等分	106
建物	9,972		
建物減価償却累計額	△ 4,418		
工作物	181,797		
工作物減価償却累計額	△ 83,470		
その他	526		
その他減価償却累計額	△ 419		
建設仮勘定	4,359		
物品	15,924		
物品減価償却累計額	△ 11,703		
無形固定資産	3,229		
ソフトウェア	107		
その他	3,122		
投資その他の資産	13,271 ※		
投資及び出資金	250		
有価証券	37		
出資金	213		
その他	0		
長期延滞債権	622		
長期貸付金	470		
基金	11,803		
減債基金	-		
その他	11,803		
その他	200		
徴収不能引当金	△ 75		
流動資産	14,767 ※		
現金預金	7,753		
未収金	2,514		
短期貸付金	62		
基金	4,363		
財政調整基金	3,448		
減債基金	915		
棚卸資産	50		
その他	27		
徴収不能引当金	△ 4		
繰延資産	-		
資産合計	204,548 ※	純資産合計	109,393 ※
		負債及び純資産合計	204,548

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。



# 連結行政コスト計算書

自 平成29年4月1日

至 平成30年3月31日

(単位:百万円)

科目	金額
経常費用	71,815 ※
業務費用	34,139 ※
人件費	12,671
職員給与費	11,549
賞与等引当金繰入額	725
退職手当引当金繰入額	65
その他	332
物件費等	19,389 ※
物件費	11,032
維持補修費	971
減価償却費	7,063
その他	324
その他の業務費用	2,080
支払利息	781
徴収不能引当金繰入額	77
その他	1,222
移転費用	37,677
補助金等	32,645
社会保障給付	4,929
他会計への繰出金	0
その他	103
経常収益	13,227
使用料及び手数料	11,115
その他	2,112
純経常行政コスト	△ 58,588
臨時損失	622
災害復旧事業費	297
資産除売却損	195
損失補償等引当金繰入額	-
その他	130
臨時利益	474
資産売却益	1
その他	473
純行政コスト	△ 58,736

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

## 連結純資産変動計算書

自 平成29年4月1日  
至 平成30年3月31日

(単位:百万円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	109,688	195,986	△ 86,298	-
純行政コスト(△)	△ 58,736		△ 58,736	0
財源	58,296		58,296	0
税金等	38,767		38,767	0
国県等補助金	19,529		19,529	0
本年度差額	△ 441 ※		△ 441 ※	0
固定資産等の変動(内部変動)				
有形固定資産等の増加				
有形固定資産等の減少				
貸付金・基金等の増加				
貸付金・基金等の減少				
資産評価差額	0			
無償所管換等	△ 4			
他団体出資等分の増加	-			
他団体出資等分の減少	-			
比例連結割合変更に伴う差額	106			
その他	44			
本年度純資産変動額	△ 295	△ 1,780	1,379	106
本年度末純資産残高	109,393	194,207 ※	△ 84,919	106

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

# 連結資金収支計算書

自 平成29年4月1日  
至 平成30年3月31日

(単位:百万円)

科目	金額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	
業務費用支出	
人件費支出	
物件費等支出	
支払利息支出	
その他の支出	
移転費用支出	
補助金等支出	
社会保障給付支出	
他会計への繰出支出	
その他の支出	
業務収入	
税込等収入	
国県等補助金収入	
使用料及び手数料収入	
その他の収入	
臨時支出	
災害復旧事業費支出	
その他の支出	
臨時収入	
業務活動収支	
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	
公共施設等整備費支出	
基金積立金支出	
投資及び出資金支出	
貸付金支出	
その他の支出	
投資活動収入	
国県等補助金収入	
基金取崩収入	
貸付金元金回収収入	
資産売却収入	
その他の収入	
投資活動収支	
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	
地方債等償還支出	
その他の支出	
財務活動収入	
地方債等発行収入	
その他の収入	
財務活動収支	
本年度資金収支額	493
前年度末資金残高	6,829
比例連結割合変更に伴う差額	1
本年度末資金残高	7,323
前年度末歳計外現金残高	429
本年度歳計外現金増減額	2
本年度末歳計外現金残高	431
本年度末現金預金残高	7,753 ※

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

## 注記事項（連結）

### 1 重要な会計方針

#### (1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有形固定資産・・・・・・・・・・取得原価

ただし、一般会計および公営企業以外の特別会計における開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

##### ア 昭和59年度以前に取得したもの・・・・・・・・再調達価額

ただし、道路、河川、水路の敷地は備忘価額1円としています。

##### イ 昭和60年度以降に取得したもの

取得原価が判明しているもの・・・・・・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・・・・・・再調達価額

ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

##### ② 無形固定資産・・・・・・・・・・取得原価

#### (2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

##### ① 出資金

##### ア 市場価格のないもの・・・・・・・・出資金額

(実質価額が著しく低下したものについては、相当の減額を行った後の価額で計上しています)

#### (3) 有形固定資産等の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産（建物・工作物・物品など）・・・・定額法

##### ② 無形固定資産

##### ア ソフトウエア・・・・・・・・定額法

##### イ 無形固定資産・・・・・・・・定額法

#### (4) 全体資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（容易に換金可能であり、かつ、価値変動が僅少なもので、流動性の高い投資をいいます。ただし、一般会計等においては、大館市資金管理方針において、歳計現金等の保管方法として規定した預金等をいいます。）

なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の

受払いを含んでいます。

(5) 消費税等の会計処理

税込方式によっています。ただし、公営企業会計及び一部の連結対象団体については、税抜方式によっています。

2 重要な会計方針の変更等

該当事項はありません。

3 重要な後発事象

該当事項はありません。

4 追加情報

(1) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

① 連結財務書類の対象範囲は次のとおりです。

団体（会計）名	区分	連結の方法	比例連結割合
一般会計	一般会計	—	—
小規模水道等事業特別会計	特別会計	全部連結	—
休日夜間急患センター特別会計	特別会計	全部連結	—
田代診療所事業特別会計	特別会計	全部連結	—
温泉開発特別会計	特別会計	全部連結	—
奨学資金特別会計	特別会計	全部連結	—
都市計画事業特別会計	特別会計	全部連結	—
土地取得特別会計	特別会計	全部連結	—
国民健康保険特別会計	公営事業会計	全部連結	—
後期高齢者医療特別会計	公営事業会計	全部連結	—
介護保険特別会計	公営事業会計	全部連結	—
介護サービス事業特別会計	公営事業会計	全部連結	—
戸別浄化槽整備事業特別会計	公営事業会計	全部連結	—

公設総合地方卸売市場特別会計	公営事業会計	全部連結	—
農業集落排水事業特別会計	公営事業会計	全部連結	—
水道事業	公営企業	全部連結	—
工業用水道事業	公営企業	全部連結	—
下水道事業	公営企業	全部連結	—
病院事業	公営企業	全部連結	—
秋田県市町村総合事務組合	一部事務組合・広域連合	比例連結	事業別割合
秋田県市町村会館管理組合	一部事務組合・広域連合	比例連結	5.00%
秋田県後期高齢者医療広域連合	一部事務組合・広域連合	比例連結	7.20%
大館市土地開発公社	地方三公社	全部連結	—
大館市社会福祉事業団	第三セクター等	全部連結	—
大館市文教振興事業団	第三セクター等	全部連結	—
(株)県北環境保全センター	第三セクター等	全部連結	—

- ② 地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられている会計においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。なお、出納整理期間を設けていない会計と出納整理期間を設けている会計との間で、出納整理期間に現金の受払い等があった場合は、現金の受払い等が終了したものとして調整しています。
- ③ 百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。